



中村俊定文庫  
文庫 18  
758







續草枕集

百橋の



途中

斗入

落馬して御階の足是こぼり	翁の後舟をる風をるる	梅咲この三日月時鳥	枚菜淋しきぬふ居かゝる	子の訓る刺の葉植かゝる	雨の宿りの人清ふあ
草人	岳輪	素壁	乙堂	嵐外	



ほそくと萩の明後る赤の信  
けしの盛りハ今又日あり  
引提て藝打拂ふ柳 籠  
いそくら此世る 相談  
うき車の袖も去りける 居る中  
ちりり此及ふ大年の毎  
小角更考る。月ふ昔の思を尚  
引板おろしき物さむとそ  
外 堂 磔 外 入 磔 堂 入

何おもも秋の衣水の消てり 雲帯  
小坊の連と疎せんふまの 如毛  
身智りの草鞋お出花の静宜 磔  
夏の恙糸のうとく板しき 堂  
苗代の立さうハきき比の色 吐丸  
証鼓の考おたつる 半時 入  
ま納の糸をんる方ふあはは 堂  
云いも、夜ふ繪と書てきる 磔







如	雲	嵐	乙	素	岳	草
毛	帶	外	堂	磔	輅	人
一	一	五	七	六	一	一
	其	喜	左	希	柈	吐
	静	年	琴	言	莊	犬
	二	三	一	一	一	一

鏡湖

湖雲

湖の水がこころをこぼれども  
 日たつらうきくはむ秋の物 素磔  
 福藁ふ存交ふまの月くして 雲  
 顔さしのもん者くの籠 磔  
 空の向くそくきむの巻 雲  
 美の風のさかぬるまは影 磔



藤時分の細き髪より打まきん  
名もたふらふ一ひきのる  
藤の袖衣の袖も坊うあき  
起て恨とやほくとりふ  
つれをけいふや越す川の音  
嘆氣のらめるはの唄し  
上りの月とゆるはのけ  
美若もほす世帯もあし  
全 磔 全 雲 全 雲 全 雲

蚤らまへ魂やき秋のうら  
りもあてさうあきを刺る  
杖箱の程も淋き花の糸  
餅喰ふ世話の結う山吹  
芍苗ふる根の云と葉いたて  
昼うし門を明て休む日  
里くにむれて子代種くひ  
よふふ時を目とまはらん  
雲 全 磔 全 雲 全 雲 全 雲 全 雲 全 雲



生涯のよき糸絶を乞出し 万依  
 暁くくふ分別を借る 鬼洞  
 次の間を結ぶ物なき行便り 艸龍  
 何人ともつゝぬ木を枯てなく 子厚  
 危き一はむう一の儘て世を送り 阿上  
 日暮くく小虫歯わす侍く 雲  
 才女侘る空いお月の初月秋 阿  
 馬をまゝせし二度別す 庵

いぢくくくくり返へば珠致致 齡  
 又も理屈のふんきふちあり 侏  
 あやふけの侍もあま切簾 洞  
 舌吸くはす花はるる中 龍  
 瘴婦の草鞋のさふゆりけ 厚  
 葉ふくくおふせきの出せり 上

ミナソノ  
湖雲 十一



素壁 九  
正阿 二  
竹庵 二  
其齡 二  
万帛 二

鬼洞 二  
艸龍 二  
子厚 二  
阿上 二

田家

素壁

雲の雨鳥の是に泡のつく  
垣免つゝしき大根の花 隆之  
種糸を朝ふ市の糸あやうて 壁  
きのふもりのも餅す申。雪月 之  
吹く細く風のうらりて月の秋 壁  
牧神を豹の名ふらう。以 之







来ぬ人こそ美屋の夢にきくはり  
傳ふ侍り給ふ翌日の才の上  
静かき隣を居るよりのこりせ  
うろくにぬけし欲ほを  
まゝ越へぬはとくして涙を  
起さぬゆきし能入る毎に  
夕月秋暑はくくの程遠く  
換せぬ秋の初年とあらさん  
乙 年 齋 乙 年 齋 乙 年 齋 乙 年 齋

是中にに露のや織る織  
移とあはハ給ふまを  
明きわたるぬエまの泣を思  
驚かあらしし勢刻む音  
この節の花は南へ吹ちし  
道のみろか流しや下決  
乙 年 齋 乙 年 齋 乙 年 齋 乙 年 齋

素 檠 十三



		田	隆
	松	年	之
	乙	五	九
竹	齊	四	

所思

斗入

乞食して起や志なき極か  
 香をとちもくハ急く暮しの死 素麩 入  
 善風ふ蝶の白ひの吹消く 入  
 暁のさうひの口をゆさうし 麩 入  
 ちあいのねくらしを月のふあ 入  
 長くさくさく怒る 鶉 麩



入口の約めお桶と盛を  
返つるのききく休足のうら  
まかきまけと寝き流のや  
まきく岩の掛あ芍薬  
枝お戸ハ去まのうらに倒れ  
腹のくくくくく六夜中の秋  
かりひ夜の月おあは後を  
小町うおのさくぬき場  
入 入 入 入 入 入 入

けのまか芳しき香をえつけ  
来あゆむ橋を一あ申と  
花をまか細帯の板庇  
まの形ちを思ふゆつり葉  
氣の候ふ赤日もきす銀  
布子の色を先移して  
新をまもあさん打ほり  
まのおりの子ま山系花  
入 入 入 入 入 入 入



あまのくにのついでにさるる夕方香  
泣かぬ子に魚をとりしす  
清もて能ふを出さるる  
妻も日くおろぬ顔  
時を壁に涙のかたし  
青麻くの髪もねま  
帷子も月のほろあはれ  
いともさるるやいとさるる

人 璧 人 璧 人 璧 人 璧 人 璧

立白ふ木槿の風のいきれ  
方の煙うあはれ  
世も此ふ出口上といひ  
那らさむく小唄  
屋の祀わく自もを  
規とちふ小貝 喰あ

人 璧 人 璧 人 璧

斗入 九



素壁十八  
若人九

甲子吟行ふ日ひをよ〜能〜奥ふ  
た〜を〜に〜る〜に〜山〜白雲  
峰ふ〜り 烟る谷 汝埋入〜書れ  
た〜の〜る〜も 海出つたを  
あき〜文〜を〜入〜と〜の  
清〜の〜と〜〜の〜を〜を〜に  
山を〜〜〜〜〜 西行庵  
の〜の〜の〜の〜



とくく音ふききり歌かほり花  
袖の清し芭蕉翁のさしつと  
浮世すうらむのむらさきと  
あつたあつたすうらむのむらさき  
さしつとあつたすうらむのむらさき  
うも清宗とととととととととと  
あつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつた

世も花もあつたあつたあつたあつたあつた 士朗

我高也梅のさしつと水川梅の花 石池  
むくくくくくくくくくくくくくくく 其外  
あつたあつたあつたあつたあつた 曾人  
あつたあつたあつたあつたあつた 卓池  
あつたあつたあつたあつたあつた 其成  
あつたあつたあつたあつたあつた 升六  
あつたあつたあつたあつたあつた 魚心  
あつたあつたあつたあつたあつた 泉左  
あつたあつたあつたあつたあつた 桂五



雪のよくやへたる。枯枝く那カヒ 甫秋  
 雪ふかしもせぬ存りか 鸞岡  
 雪や今ふせ好あら枯枝しと 除艾  
 雪をぬけハ水きとめと流るる 恒見  
 雪雪の啼あふせハを松のせヨハリ 五雄  
 雪を喰ひてもあふ仲問介 鬼洞ムサシ  
 雪に枇杷の古枝えんをたれを 素高  
 雪のすや一をい流るるの中 三都良  
 雪の空やきも程かく月のけコシ 左琴

わる藤す。腹を出来たり雪の朝 田年  
 七草のあふふをり積田彦アキ 宇柏  
 雪草や何もたくすぬ人の顔カヒ 蟹守  
 雪をぬけはこりかけたる山嵐コシ 五芳  
 雪の叶や犬もくおくる雪の夢 三札  
 雪ののりせハ出る声也ふ 壺伯  
 雪風やかいらんえぬ油賣ヨハリ 雨節  
 山里を雪を伝るる能無トフサ 枝直  
 雪ふあふるやも積のト仕事フシゴ 有篁



野のつらき出〜ある赤椿 コシ 斗樂  
るふ曲けて椿を落し存る 京 雪雄  
色の更ハ椿の赤の落多し ムカシ 毛久之  
萩の名のそまを〜や白椿 大カカ 井眉  
小糸呂故か〜萩海りぬまの雨 如陵  
魚より〜連うほ〜いまぬる ヲハリ 魚堂  
そらの戸を伝うさ〜いまぬる イセ 鶴鳴  
そあり〜海りか〜のぼるの雨 エト 道彦  
連翹の郊戸か〜ぬまの〜 仙市

まき子の二交海り心種おせか 葵九  
まのめつも海り心ぬまぬる 若人  
萩とこ免よま子の連七海あ〜 ヲハリ 方明  
青ふ〜心まぬるす〜 萩り那 ムカシ 半星  
湯火のせにぬまや老大工 ヲク 素郷  
師を〜やもふほ〜なる是切し ムカシ 夫山  
と銘もつるる若田の鶴や埋け チクセ 吾来  
と今ぬす〜めにぬる二月うか 阿上  
七月や〜もたぬる海の上 京 宗樹



早蕨やりのつぎきききそのあそ 嵐底  
雛のよれ根分をたぐへ葉の苗 義車  
と夕ぐいくのつと啼 嘘 友國  
蛙子のるにほとけの山家うふ 儲史  
さ川やうと暮か入る嘘 耶 護物  
大和路の賑かりしはて嘘 月 買月  
嘘ねやうにありたる雲の跡 柯曉  
二叔ともあき枕林の月ねが 年眉  
鴨とのさうあくあやまの月 岳臺

田のうのに五羽ふ斬りぬ嘘 月 天郷  
よのねの月か淋しき新田 桺莊  
鴉らの端掛しとる新の芽 哉堂  
青海苔ぶたうき新の糸ひ 谷水  
いつの月ふはまの産をさ 吾七  
まの海へかみ出たり 耶 漫々  
夕のうけを申すり出る田舎 微席  
田舎の月をあはれわする海 東水  
曙やい新のうらむ東風り吹 柏翠



苗代ふ天の香久山トセン入る日くれ 祥未  
白兔の申りくくはよ目口まヲク 旧人  
啼きくも清の香ハク 竹岱  
爪先の動く時あきくはハク 木鶏  
芳潔とあききききサツのあ 青梁  
横かあつて葵の這入るあハク 一之  
燕来とあききききイセ 孔阜  
啼くあ又ひく清くあチクセンのあ外 蘭儿  
秋のあトクとあにあハクのあハクとあハク 三生

猫のあイヨとあイヨとあイヨとあイヨとあイヨ 樗堂  
啼くあカヒとあカヒとあカヒとあカヒとあカヒ 太年  
猫のあフセンとあフセンとあフセンとあフセンとあフセン 了國  
菅細や日あゴシとあゴシとあゴシとあゴシとあゴシ 三弥  
あハリとあハリとあハリとあハリとあハリ 蝸國  
あハクのあハクとあハクとあハクとあハクとあハク 半古  
大空やあトクケのあトクケとあトクケとあトクケとあトクケ 雄尾  
木瓜の花あムカシとあムカシとあムカシとあムカシとあムカシ 南雄



あらふもあらしもあつた瓜の花シク 文角  
 数入の影もつけよ板のまマ 一茶  
 ひくけつふつふてきまき漏うれエツ 方三  
 大松の影もあつたあつたヨク 淵丸  
 うんこあまの生あつたあつた下ノ 雨塘  
 けいあつたあつたあつたあつたアハ 葦泊  
 けいあつたあつたあつたあつたヒタ 東有  
 申あつたあつたあつたあつたヨク 晋我  
 まあつたあつたあつたあつたカ 玉屑  
 眉山

ちよほくと睡の晴くは月カ 魚卵  
 子供らふ二日おくれ衣之ナカト 羅風  
 七草をととちよほくとあつたあつたアハ 郁賀  
 翌日よりもあつたあつたあつたテハ 長翠  
 窓あつたあつたあつたあつたフシコ 葵亭  
 外の花や月のそとあつたあつたヲハリ 楳間  
 外のまをいふあつたあつたあつたヒタ 九淵



雪の老成そくくろみの上<sup>上ツケ</sup> 鹿太

祢宜の来て居てハ顔出ぬ恙平<sup>平</sup> 石鳴

小鳥のむら<sup>ムラ</sup>巢も啼<sup>ウ</sup>わり葉が<sup>エト</sup> 路川

雪うら<sup>ウラ</sup>新も啼<sup>ウ</sup>りかき<sup>カキ</sup>は<sup>ハ</sup> 一草<sup>一草</sup>

花むら<sup>ムラ</sup>虫もほり<sup>ホリ</sup>ます<sup>マ</sup>杜<sup>ト</sup>も<sup>モ</sup> 玉峨<sup>玉峨</sup>

春の夜心長<sup>ナガ</sup>小<sup>コ</sup>編<sup>ヒ</sup>ふ<sup>フ</sup>う<sup>ウ</sup>かき<sup>カキ</sup>つ<sup>ツ</sup>も<sup>モ</sup> 耳谷<sup>耳谷</sup>

雪も啼<sup>ウ</sup>て居<sup>イ</sup>る<sup>ル</sup>樹<sup>ツ</sup>や<sup>ヤ</sup>く<sup>ク</sup>ん<sup>ン</sup>こ<sup>コ</sup>も<sup>モ</sup> 叶司<sup>叶司</sup>

采<sup>サイ</sup>言<sup>ゴン</sup>も<sup>モ</sup>あ<sup>ア</sup>り<sup>リ</sup>つ<sup>ツ</sup>け<sup>ケ</sup>の<sup>ノ</sup>花<sup>ハ</sup>必<sup>ヒ</sup>便<sup>ベン</sup>り<sup>リ</sup>や<sup>ヤ</sup> 乙見<sup>乙見</sup>

家<sup>カ</sup>か<sup>カ</sup>り<sup>リ</sup>の<sup>ノ</sup>サ<sup>サ</sup>敷<sup>シ</sup>の<sup>ノ</sup>度<sup>タク</sup>は<sup>ハ</sup>よ<sup>ヨ</sup>か<sup>カ</sup>ん<sup>ン</sup>と<sup>ト</sup>も<sup>モ</sup> 蕨市<sup>蕨市</sup>

采<sup>サイ</sup>名<sup>ナ</sup>も<sup>モ</sup>啼<sup>ウ</sup>や<sup>ヤ</sup>六<sup>ロク</sup>日<sup>ニチ</sup>の<sup>ノ</sup>加<sup>カ</sup>茂<sup>モ</sup>境<sup>ケイ</sup> 若翁<sup>若翁</sup>

雪<sup>ユキ</sup>も<sup>モ</sup>啼<sup>ウ</sup>ハ<sup>ハ</sup>一<sup>イチ</sup>羽<sup>ウ</sup>く<sup>ク</sup>も<sup>モ</sup>行<sup>ユク</sup>る<sup>ル</sup>子<sup>コ</sup> 麦茂<sup>麦茂</sup>

あ<sup>ア</sup>ま<sup>マ</sup>も<sup>モ</sup>あ<sup>ア</sup>る<sup>ル</sup>里<sup>リ</sup>も<sup>モ</sup>ち<sup>チ</sup>す<sup>ス</sup>わ<sup>ワ</sup>る<sup>ル</sup>子<sup>コ</sup> 夕人<sup>夕人</sup>

月<sup>ツキ</sup>も<sup>モ</sup>の<sup>ノ</sup>あ<sup>ア</sup>ら<sup>ラ</sup>ハ<sup>ハ</sup>あ<sup>ア</sup>ら<sup>ラ</sup>ハ<sup>ハ</sup> 浪<sup>ナミ</sup>意<sup>イ</sup>扇<sup>セン</sup> 黄<sup>ワウ</sup>山<sup>サン</sup>

任<sup>ニ</sup>も<sup>モ</sup>か<sup>カ</sup>く<sup>ク</sup>て<sup>テ</sup>ま<sup>マ</sup>ぬ<sup>ヌ</sup>る<sup>ル</sup>家<sup>カ</sup>庭<sup>テイ</sup>が<sup>ガ</sup> 文<sup>モン</sup>嘯<sup>セウ</sup>

月<sup>ツキ</sup>も<sup>モ</sup>あ<sup>ア</sup>ら<sup>ラ</sup>ハ<sup>ハ</sup>あ<sup>ア</sup>ら<sup>ラ</sup>ハ<sup>ハ</sup>の<sup>ノ</sup>花<sup>ハ</sup> 蕉<sup>セウ</sup>雨<sup>ウ</sup>

月<sup>ツキ</sup>も<sup>モ</sup>あ<sup>ア</sup>ら<sup>ラ</sup>ハ<sup>ハ</sup>あ<sup>ア</sup>ら<sup>ラ</sup>ハ<sup>ハ</sup>の<sup>ノ</sup>花<sup>ハ</sup> 如<sup>ニ</sup>毛<sup>モウ</sup>

輝<sup>ヒ</sup>も<sup>モ</sup>の<sup>ノ</sup>あ<sup>ア</sup>ら<sup>ラ</sup>ハ<sup>ハ</sup>あ<sup>ア</sup>ら<sup>ラ</sup>ハ<sup>ハ</sup>の<sup>ノ</sup>花<sup>ハ</sup> 太<sup>タイ</sup>嶺<sup>リョウ</sup>

け<sup>ケ</sup>も<sup>モ</sup>の<sup>ノ</sup>あ<sup>ア</sup>ら<sup>ラ</sup>ハ<sup>ハ</sup>あ<sup>ア</sup>ら<sup>ラ</sup>ハ<sup>ハ</sup>の<sup>ノ</sup>花<sup>ハ</sup> 對<sup>タイ</sup>竹<sup>チク</sup>



尾急は麻の子の育つるまゝエト 白夜  
前子見ても暮らさずあそびありき 成美  
ちのちと風も呼ぶあそびエト 大峨  
竹のふくらむさうらうハミチキミ 飄風  
蟻あやや半賣りさく 跡エト 周  
裸足の湯もあつし夏の秋 巴江  
まゝ入りとらんまじ夏の暮 嵐外カヒ  
たあがぬおぼよとん 秋の鏡おち 吐火  
おろけのちふかきまじりくわち 百非ヲク

山位のもめあそびし竹桂京 六響  
二ねほとあひのうらうらと啼も鶴テハ 仙風  
よふかて水鏡のららあ花うか 喜年コシ  
今の眠るねむち風の音 樵人カ、  
時を遊ばさるの白ひカサレ 松乙  
きくすてはさるきまじりし大サカ 丹頂  
青やふさりのまじりてあぶらアブミ 素園  
日やまじりしつゆあはらほ葉アブミ 于當  
居るあやも寝もとまじり初し 亜碩



こそくと長舟かほくく福うか エト 巢兆

故佳とあてこそい屋くハを藤 コレ 函嘯

故佳と出て抱おおもハを藤 大ナカ 奇淵

に五人の目をあくる アキ 采葛

海草まやふふと水をか故を子 アキ 篤老

昇糸やまきまの端にをやす水子 正阿

夏の物とふとふあけり カヒ 魚洋

夏の物やゆきとを倒す カヒ 崔堂

山あいのほそく ヲク 東原

子供らうまて門の田を植ふる 大ナカ 春人

弦石子 コレ 尺艾

秋の香のこほれせれ コレ 東雲

雲の物と橋ふあけり コレ 吞鳥

草の葉やとり 上ツケ 鷺白

ゆい 京 空阿

夕白 カツサ 北尼

花ほ ナカ 濃水

切 ナカ 虎杖



何ありとさし玉せ刺をぬか蜜 ヲカリ 蓬杣  
 糸ふ糸ふ花の暑はよ涼 留 アキ 雙蛇  
 布桂く月をばえさし 苔の花 月巢  
 標の言の雀入や五月る エト 有圭  
 枯草を平 頬白の咲る 暑地外 万俣  
 灯をいも 秋の涼 京 千崖  
 涼くはふ夕白の花川あけ 竹庵  
 涼くはと抱あけて 露は山 ヒツケ 許友  
 すくはのすせと 淋く 雨や荒 呂利

磯の蟹泡吹ちくはあつらくれ コシ 古周  
 暑くく麻をとつらむや木曾の屋 京 宗有  
 滝くく帷子くく二階ん 京 岱李  
 白くく水くく家の料理 ミカハ 秋拳  
 タまのあよりとややとせ油の糸 斗宵  
 夏くたたく夕やくれく糸ふ牙あれ ヲハリ 硯静  
 白蓮の一掃さきぬ 稻のや 桃蹊  
 夏糸糸相を照る日の白く カハチ 杜口  
 水くはふてぬける 暮の掃か カヒ 可都里



みらきしと声と穂お出るとく 州龍

今朝の秋運の使のりともは利 ヒラ 一左

行人のちとゆえくははの秋 天朗

赤年を赤心はちやと秋の秋 ヨラ 業便

相のちやと秋の秋の秋 ヨラ 天有

をちと秋の秋の秋 ヨラ 春暎

秋来ぬとちと秋の秋の秋 京 夫左

六りとも秋の白しや カヒ 童行

文月やひと秋の秋の秋 イセ 椿堂

秋の秋と秋の秋の秋 ヨラ 冥々

唐秦の夜と秋の秋の秋 カヒ 方居

七夕にちと秋の秋の秋 イツモ 花叔

早の秋と秋の秋の秋 ヒセニ 鞆風

早の秋と秋の秋の秋 ヨラ 士國

おと秋の秋の秋の秋 双亭

赤の香の秋の秋の秋 冬化

かちと秋の秋の秋の秋 帰撲







花菱草樹ハナヒナギサ 恒九コウク

稻の香コメノカとトしシあアそソーーたるタル出デゆユりリ 竹里タケノサト

木啄キツクのノやヤをヲハハゆユんンあアくクまマへヘをヲ 恭雄キウユウ

まマりリとトふフあアやヤまマのノ一イチとトこコらラ 綾彦アキヒコ

しシのノあアらラいイ嶽ツクあアちチくクやヤ寺テラのノ家カ 一作カヒ

白雪シラユキのノ明アカリりリやヤるルのノ人ヒト申マウすスまマてテ 巢居サウキ

別ワケ水ミヅもモあアるルよヨのノあアらラわワ家カのノ玉タマ、 秀山シュウサン

家カのノ戸ドふフ打ウちチをヲあアりリぬヌ家カのノ山ヤマ 雨アメ蘭ラン

家カをヲたタくクおオのノひヒらラをヲ悖ヒのノ壳カ 椽ケ價バ

起キるルかカもモ時トキをヲあアらラわワとトあアりリくクれ 何ナニ彦ヒコ

時トキのノあアらラわワかカもモあアらラわワるルもモ 十ジュウ寸サン影カゲ

あアつツつツとト戸ドもモあアくク時トキのノあアらラわワ 乙エツ堂ドウ

とトのノあアらラわワるルのノつツくクもモこコこコ日ヒ 其ソノ齡レイ

家カ知チしシ一イチとトまマまマのノあアらラわワるルか 関カン豊ユウ

あアらラわワるルもモあアらラわワるルもモあアらラわワるル 鳥アヲミ頂テイ

大オホ崎サキやヤ吹フクとトこコらラあアらラ 庇ヒ 下シタツツケケ まマさサ伎キ

波ナミらラわワてテあアらラわワるルあアらラわワるル 田タ都ツ留リウ

待マツ月ツキふフくクらラとトあアらラわワるル 有ア斐ヒ







くらんたるぬ海巴とおか其菊川 大サカ 春哉  
 一年らかうきこののく菊此花 アヲミ 可盈  
 菊の香やひらひらこのとりれ鳥 ヲク 史方  
 白きくやひらふらふ鞋のきき追 カイ 巴囿  
 せーらやまのうけもくあゝの氣、 蘭亭  
 振賣の出もやねまの竹の杖 青以  
 簪つけハ馬も物喰ハねま介 ミヤ 茂良  
 朝まや鳥の渡り川乃上 ヨク 一會

草鞋のあと訪ハ赤電の時 大サカ 竹齊  
 香くもやねまの時 ハリマ 厚丸  
 初しうれ松の池をみまおたり 何籟  
 馬あつや大ゆ、 時る クルメ 格兆  
 うけぬけていんても 大カカ 麦太  
 赤毛の馬も若むす ヨカリ 兆如  
 をしんらふて イセ 南江  
 山系花のぬくみと アキ 路宅  
 山系花のぬくみと ヒタ 元々



帷の葉の吹きて出たり枯柳 不外  
赤い葉らみ分ちつゝよみの菊 カキ 蓬守  
雪の来初てえくぬ枯ゆけ ナカト 憐霞  
後けやま来てえくぬ菊の宿 ヒヤシ 菊也  
埋方やとり欠す。海の音 カワガ 太筈  
旅人の泣きおあまの入日 コシ 山川  
あの日をりてあは垣の梅も コシ 楳朴  
雪し板をきみのお細い 大ナカ 夜未  
うけくと桐の実焦す ヨク 小ま カ 浦人

赤い葉らみ分ちつゝよみの菊 カキ 蓬守  
雪の来初てえくぬ枯ゆけ ナカト 憐霞  
後けやま来てえくぬ菊の宿 ヒヤシ 菊也  
埋方やとり欠す。海の音 カワガ 太筈  
旅人の泣きおあまの入日 コシ 山川  
あの日をりてあは垣の梅も コシ 楳朴  
雪し板をきみのお細い 大ナカ 夜未  
うけくと桐の実焦す ヨク 小ま カ 浦人  
赤い葉らみ分ちつゝよみの菊 カキ 蓬守  
雪の来初てえくぬ枯ゆけ ナカト 憐霞  
後けやま来てえくぬ菊の宿 ヒヤシ 菊也  
埋方やとり欠す。海の音 カワガ 太筈  
旅人の泣きおあまの入日 コシ 山川  
あの日をりてあは垣の梅も コシ 楳朴  
雪し板をきみのお細い 大ナカ 夜未  
うけくと桐の実焦す ヨク 小ま カ 浦人  
赤い葉らみ分ちつゝよみの菊 カキ 蓬守  
雪の来初てえくぬ枯ゆけ ナカト 憐霞  
後けやま来てえくぬ菊の宿 ヒヤシ 菊也  
埋方やとり欠す。海の音 カワガ 太筈  
旅人の泣きおあまの入日 コシ 山川  
あの日をりてあは垣の梅も コシ 楳朴  
雪し板をきみのお細い 大ナカ 夜未  
うけくと桐の実焦す ヨク 小ま カ 浦人



吉かふーや家と家との間をわら カ 鹿古  
風や小くきき星の升一房し ムカシ 國村  
音くふきもまのきぬちりり ハリマ 千夫  
きぬや目もかろん 大カカ 布舟  
澄きもよの人はも ヲハリ 釣翁  
在明や波もは森の音のあや アキ 鹿野  
聆ふ祈もく トツケ 玄蛙  
あといけあき ヲク 巢也  
あやのせし イセ 魚の月 雄淵

雪の多い イセ 丘高  
森ふとる ヲハ 三夕  
犬吼る ハ 雄途  
冬の日と ハ 泉河  
啼つても 兵コ 桐栖  
旅の 大カカ 三津人  
菊の ヲク 蘭吹  
衣を ハ 有是  
ねを ハ 投雲



納豆くくくや佛も動くまの房ヨク 北溟  
言う菊の牛かうく河も静ありコシ 岐東  
菊枯て鳩の夢ありあーたがヲク 楓江  
根芽這ふまてか老るは枯尾志 芸門  
枯尾志何かうかう月ひたきヨカミ 葛三  
袖袂めく懐より枯尾志カイ 芦陽  
ほつりんとくつらふおぬ屋俵イセ 滄波  
とく言や房の舞越す鈴なりけ 隆之  
弁かついてこむおふらる言の事 八朶

推は末のよもく世と入す。初の中大カカ 采彦  
淋しはふまはる。招しよ房の雪ヨカリ 岳輅  
あーく海を待てる老ふなり 風叟  
霞やむあときつじしき斗りカイ 松夷  
おくや虎か曲る膝かーら 小泉  
難波の千汐もちまふおぬが大カカ 魯隠  
髪をわはまおとーこのすり衣 見二  
あまきりて老をま入ぬおぬヨク 亀白  
老のよのくくぬ枝おきくさかヨク 日人



松の葉おしんかむをささの入 ミナカ 遊之  
むしら帆のちよりまきし来る海 ウラ 乙二  
ま念佛あけすの門ふやるとなり 京 素頑  
夕音のさあふくすふをたか コシ 其静  
乾鐘と押そ地響の裸うれ オカカ 蜂友  
か鐘ふ味のあゝるをむじん免 ヲハリ 佳雄  
山里ち遠く日の出る櫓う那 タニハ 武陵  
麻て起て子供のあるや梅の花 カイ 真恒  
蓮葉の先びしらくさる ヲハリ 天老

すくとまや俵のたう治く ヲハリ 竹有  
尾くの鳥噪りまの物 是三  
松梅お子のあはれとく オカカ 百堂  
大根か之く度りぬ長ら ヲハリ 長齋  
湖の水んて年を忘る ヲハリ 大蘓  
系門の松も世ふおふ クルム 芦月  
山川ふ流く言や鬼や ヒタ 荷逸  
り蛇をちりてま オカミ 東洞  
まらてり 上ツテ 年の中やも 上ツテ 詠歸



水風呂のこめてお慶し年の暮 下 常南  
申すうかく叔又いふ事なりきる年 蘿堂  
ゆきや小松島も存のころ 雨暁  
三浦季の出口を並に戸口 トクナ 啓山  
かちくと其案つじ年の中へ ヲハリ 騏六  
ひくくして果しあきか年の暮 菩雪

文化の七とせ作をの十日に 赤 湖  
東京の存すくそ案 赤 山とあつじ

蕉門書林 皇都寺町通二條  
橘屋治兵衛梓



